



平成  
30年度

# 決算額139億円の使い道

平成30年度の町の収入と支出の実績を表す決算が、町議会定例会9月会議で認定されました。一般会計では歳入が約139億円、歳出が約132億円となりました。ここでは決算の概要について紹介します。

## 歳入歳出とも過去最高の130億円超 今年度も高い自主財源比率を維持

**歳入** 歳入総額は前年比12・7%増加  
町税は前年比約3千9百万円増加

町に入ってきたお金（歳入）の総額は約139億円で、前年度に比べて約15億7千万円増加しました。

主な内容は、寄附金がふるさと納税などで約13億3千万円、矢巾スマートインターチェンジ周辺や岩手医科大学附属病院周辺の道路整備事業などで国庫支出金が約2億2千万円増加しました。一方、基金からの繰入金金が約2億7千万円減少しました。

町税などの町が自ら収納して使える「自主財源」は50・4%と前年度比3・6ポイント上昇し、特に町税は総額で約37億2千万円と依然、高い数値を維持している他、全国から寄せられたふるさと納税が約15億円と、健全な財政運営の大きな力となっています。

今後、厳しい財政状況は続く予想されますが、自主的な財源による事業運営の推進と自主財源の確保に努めます。

**歳出** 総務費が前年比62・1%増加  
土木費も前年比26・1%増加

町が使ったお金（歳出）の総額は約132億円で、前年度に比べて約15億6千万円増加しました。

主な内訳では、返礼品購入費などふるさと納税に係る経費などにより総務費が約11億8千万円増加、矢巾スマートインターチェンジ周辺や岩手医科大学附属病院周辺の道路整備事業などにより、土木費が5億9千万円増加、平成29年度から繰り越した小学校トイレ改修工事などにより、教育費が約2億6千万円増加しました。一方、平成30年度は町債の繰上償還を行わなかったことから、公債費が約2億2千万円減少しました。

今後、地方創生事業および令和2年度から始まる第7次矢巾町総合計画後期基本計画の推進に取り組むため、引き続き業務の効率化と支出抑制を行いながら、健全な財政運営に努めます。

▼歳入用語解説  
国庫支出金：事業に対する国からの補助金  
町債：公共投資などに伴う町の借金

寄付金：町に対して贈与されたお金。ふるさと納税は寄付金に含まれます。  
地方交付税：町の財政力に応じて国から交付されるお金

自主財源比率：歳入全体のうち、自主財源がどのくらいあるかを示す割合。この数値が高いほど国や県に頼る割合が少なく、財政が健全であるといわれています。

▼歳出用語解説

総務費：一般事務経費や財産管理、積立金など

民生費：老人福祉や障がい者福祉、保育園費など

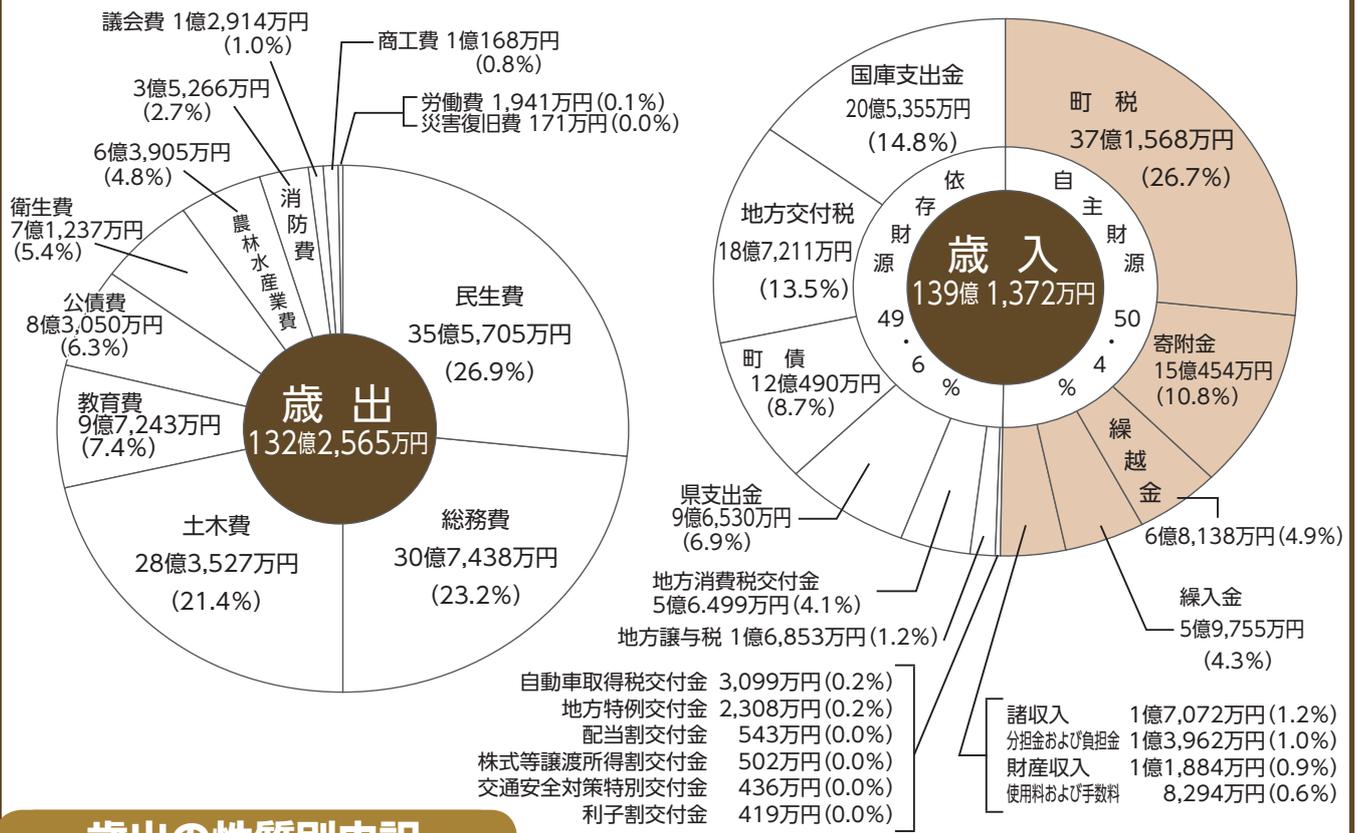
衛生費：病気の予防のための各種検診やごみ処理、し尿処理など

農林水産業費：農業の振興や農用排水路の整備など

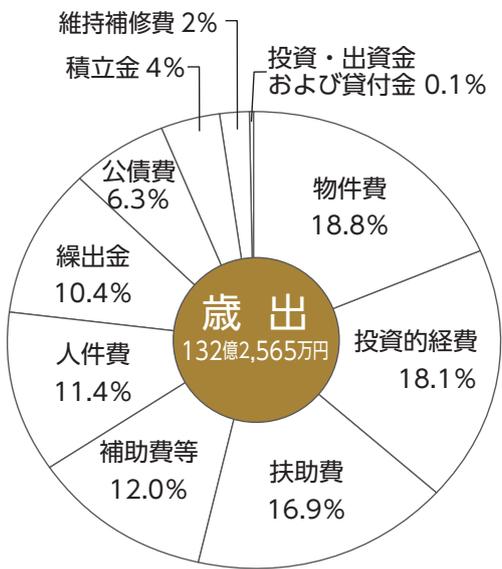
土木費：道路整備や区画整理、下水道整備、河川や橋の整備など

公債費：事業を行うために借入れたお金（町債）の返済金

## 平成30年度 一般会計決算の構成

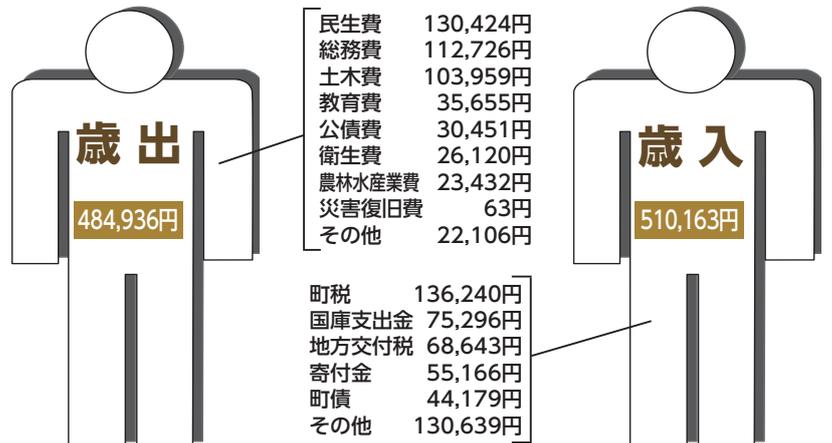


### 歳出の性質別内訳



### 町民1人あたりに換算すると…

(平成31年3月末の人口27,273人で計算)



### 平成30年度特別会計・公営企業会計の決算

会計名	収入額	支出額	会計名	収入額	支出額
国民健康保険事業	24億9,842万円	24億4,765万円	水道事業	収益的	8億3,525万円 / 4億6,611万円
介護保険事業	22億1,970万円	20億6,097万円		資本的	11億6,046万円 / 17億1,033万円
後期高齢者医療	2億 837万円	2億 543万円	下水道事業	収益的	10億8,205万円 / 10億 134万円
矢幅駅周辺土地区画整理事業	6億6,256万円	6億3,263万円		資本的	2億7,687万円 / 7億2,685万円

(千円を四捨五入)